

ENSDF グループ平成 25 年度会合議事録

日時 平成 26 年 2 月 13 日 午後 1 時 30 分～4 時 00 分
場所 原子力機構 東京事務所第 3 会議室
出席者 飯村秀紀（原子力機構）、大矢進（元新潟大）、片倉純一（長岡技術科学大）、神戸政秋（東京都市大）、喜多尾憲助（元放医研）、橋爪朗（元理研）

配付資料 (1) 平成 24 年度 ENSDF グループ活動報告と次年度以降の計画
(2) News from the Atomic Mass Data Center-January 2014

議事：(1) 作業状況の確認

昨年度末に JENDL 本委員会に提出した配布資料 (1) に基づき、作業状況の確認を行った。評価作業中の A=118（担当者は、喜多尾、神戸）は、作業の終了までまだ時間がかかる。同じく作業中の A=120（橋爪）と A=126（飯村、片倉、大矢）は、前回の改訂以後に出版された文献を収集し、それらのデータをファイルに入力しているところである。A=120, 126 については、来年度中に改訂版の原稿を NNDC に送り査読を受けることを目標とする。また、来年度から A=123（神戸）の評価作業を始める。

(2) 評価作業の経験交換および評価手法の確認

評価作業では、 β 崩壊の $\log ft$ 値を計算するのに崩壊の Q 値を使うので、どの Q 値（原子核質量の差）を採用するかは評価作業を進める上で非常に重要である。質量の評価値について、Atomic Mass Data Center (AMDC) から最近届いた連絡（配布資料 2）について議論した。AMDC によると、近々 Atomic Data and Nuclear Data Tables 誌に、AMDC とは別のグループによる質量評価値が出版されるが、これは AMDC とは何の関係も無いとのことである。AMDC は、このグループの質量評価の手法は適切でなく、Atomic Data 誌での出版は質量評価値の使用者を混乱させるとして批判している。会合では AMDC からの連絡についていろいろ議論した。その結果、従来通り AMDC の質量評価値（文献番号 2012Wa38）を評価作業に用いることを確認した。

また、評価作業の経験として、以前評価して既に Nuclear Data Sheets 誌に出版されている ^{120}Sn の励起準位のスピンの値について、National Nuclear Data Center から γ 遷移が不自然であるという指摘があったことが紹介された。担当で検討した結果、スピン値を訂正することにした。どのような手順で訂正するかは未定である。

(3) その他

評価作業で必要となる文献の収集について、ジャーナルと異なりプロシーディングスや年報等は図書館に無いことが多いので、それらの取得方法について情報交換した。